学校番号（小 50）豊橋市立（老津小）学校

令和７年度　学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和８年２月２日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
互いを認め合い、温かな人間関係と豊かな心を育む	一人一人を大切にした学級・学校づくり	・学級経営、学校行事等に心を耕す方策を取り入れるとともに、温かなつながりを基盤にした安心できる集団づくりに取り組む。	A	A	・縦割り班活動では、高学年児童がリーダーとして企画・運営する姿が見られた。 ・「こころタイム」や「ありがとうカード」などの取り組みで互いのよさを見つける目が育っている。	A	・縦割りの活動が有効であったように思う。 ・この評価自体、地域のものにとって、なかなか実態を十分把握できていない中なので難しい。	・個々に見たときに、コミュニケーションスキルが低く、意欲の低いまま学校生活を送っている子どもに対して、生活サポート情報交換会や、ケース会議等を開くなどして、全職員で支援を行っていきたい。
	互いを認め合う心の育成	・自己有用感を高め、互いに認め合う心を育む学活や道徳教育の充実を図る。 ・子ども一人一人の特性を見取り、多様性を大切にした支援を実践する。 ・異年齢集団活動の充実を図る。	A					
わかる楽しさ・できる喜びを感じ、自ら学び続ける姿勢を育む	「わかる楽しさ」「できる喜び」を生む授業	・子どもが夢中で学びたくなる問題解決的な単元構想を工夫する。 ・体験・本物を重視した学びと人とのつながりを重視した学びを図る。 ・ひとり学び（ひとり調べ）と話し合い（対話）を効果的に位置づける。 ・学びのつながりを意識した実践を支援する。	B	B	・子どもの思考を大切にした授業づくりができた。 ・各学年校外学習や出前授業を行い、体験・本物を重視した活動が効果的だった。 ・授業の振り返りをスムーズに書ける子が増えた（学びの言語化） ・国語を中心に「一人読み（学び）」「話し合い」を効果的に位置づけた授業が展開できた。	A	・話を聞く（座学）だけではなく、実際に見たり触れたりしたことは記憶に残るので、背局的に取り入れたい。 ・保小連携を保育士たちが希望しており、接続という観点でも可能な限り推進してもらえるとよい。	・一人学びへの支援の充実度が、学級によって差が感じられたため、校内現研等で、教職員のスキルアップを図りたい。 ・「めあて」や「振り返り」をノートに書くだけで、実践が伴わない児童がいるため、ワークシートへの朱書きや、机間支援・授業途中の切り返しでの声かけで確認していきたい。
	学びに向かう力を育てる	・「本時の目標」を明確にして、支援を工夫する。 ・「振り返り」を大切にして、自己の変容を自覚し、次の課題をもてるようにする。 ・自主的な家庭学習の姿勢と習慣を支援する。	B					
生涯を通じて逞しく生きるための心と体の健康・体力・安全意識を高める	生活習慣の確立	・「早寝・早起き・朝ごはん」を基本に、生活習慣の定着を図る。 ・メディアコントロールを働きかける。	B	B	・家庭科「朝ごはん」の単元の実践は効果があった。 ・火災や地震、不審者など様々な現実的な場面設定をした訓練ができた。 ・体育の授業前のサーキットトレーニングは効果的だった。 ・教師も長放課に一緒に活動でき、効果があった。	A	・通学団長がしっかり下の子たちをリードできている。 ・防災の意識向上は、地域としても重点課題においているので、推進・徹底をお願いしたい。	・チェックしていない日でもメディアコントロールができるように、特に個人で情報機器を所有している児童の保護者とは定期的に情報共有し、個別支援に当たっていきたい。 ・安全点検日の異常個所に対する早期対応についての共通理解を図る。
	体力の向上	・運動場の遊具を活用した、体つくり運動系の充実を図る。 ・計画的に重点目標（マラソンチャレンジ、なわとび月間など）を設け、体力向上への意欲を高める。	B					
	安全教育の推進	・学活や避難訓練による安全指導を通して、安全意識と対応力の向上を図る。	A					
信頼される教職員集団をめざし、家庭・地域と連携した教育を推進する	教職員としての誇りと自覚	・全員授業を実施し、自由闊達な意見交流を通して、授業力の向上を図る。 ・風通しのよい職員室づくりに努め、報告・連絡・相談・確認の徹底を図る。 ・セルフマネジメントの意識をもって、業務改善を推進する。	A	A	・各学校行事の立案では、昨年度の反省を踏まえて、新たな企画や提案ができた。 ・不適応対策等、必要に応じて対策委員会を開き、チームで対応の方針を考えられた。	A	・報告・連絡・相談の様子について、地域のものが職員の様子を評価する判断材料があるとよい。	・保護者からの連絡・伝達事項等について、部外秘事案も含め、確実に情報共有していく。 ・提案事項の決定以後、変更する場合に、確実に共通理解を図っていく。
	家庭・地域との連携	・学年・学校通信やホームページ等を通して、積極的に学校の教育方針や教育活動を発信する。 ・学校連絡アプリを活用して、教育支援を積極的に募る。 ・コミュニティ・スクールを生かして、地域とともに学校運営に取り組む体制を整える。 ・家庭や地域と協働して、郷土学習を推進する。	A		・遠足での見守り等保護者の支援ボランティアは効果的だった。 ・ふるさと先生や地域の方との交流を通して、積極的に郷土学習に取り組めた。		・コミュニティ・スクール導入初年度といいうことで、準備・計画から推進の様子を見ていて、よく練られていると感じた。	・地域連携カリキュラムが整備されたが、次年度以降も、学校運営協議会と職員が連携しながら、持続可能な教育支援や組織運営の仕方について熟議を進めていきたい。

【自己評価　　A：十分に達成されている　B：概ね達成されている　C：あまり達成されていない　D：ほとんど達成されていない】

【総合評価　　自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価】

【関係者評価　A：適切である　B：概ね適切である　C：あまり適切ではない　D：適切とは言えない】